

## 2009 年度研究大会に向けて：会場は秋田大学

2009 年度（第 38 回）研究大会は、2009 年 10 月 17 日（土）～18 日（日）の両日、秋田大学で開催されることが決まりました。大会での共通論題テーマは、本年 2 月の理事会で検討した結果、「グローバル金融危機に対応するロシア・東欧」（仮）とすることとなりました（本ニューズレター 2 頁の共通論題企画委員長による趣意書、同第 3 回理事会議事録を参照）。

共通論題企画委員長に選出された吉井昌彦理事（神戸大学）が中心となり、調整の結果、共通論題の報告者・討論者は下記の会員にお願いすることとなりました（敬称略）。

### 《経済分野》

報告：上垣 彰（西南学院大学）

討論：溝端 佐登史（京都大学）

### 《政治分野》

報告：兵頭 慎治（防衛研究所）

討論：下斗米 伸夫（法政大学）

### 《社会分野》

報告：志摩 園子（昭和女子大学）

討論：蓮見 雄（立正大学）

### 《文化分野》

報告：村田 真一（上智大学）

討論：ヨコタ村上 孝之（大阪大学）

なお、今年も引き続き、Japanese Society for Slavic and East European Studies (JSSEES) との共催による研究大会となります。大会プログラムなど詳細は学会 HP など、随時お知らせする予定です。会員の皆様の多数の参加をお願いします。

## 自由論題報告者を募集 (5 月末締め切りです)

ロシア・東欧学会 2009 年度大会にて自由論題報告を希望される会員は、2009 年 5 月末日までに、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告のタイトル、⑥報告要旨（400 字以内）を、開催校責任者の中村裕理事（hiroshin@ipc.akita-u.ac.jp）まで e-mail（やむを得ない場合は郵便で）お知らせ下さい。なお、この報告要旨は、次回理事会での承認および分野別に編成される分科会への割り振りを決定する際の参考にするためのものです。大会当日に配布するレジュメではありません。レジュメの提出期限等については、別途、大会開催校より各報告者にご連絡がいくと思いますが、8 月末～9 月中旬ぐらいがメドになります。

なお、大会プログラムの詳細は未定ですので、大会期日の 2 日間のいずれの時間帯に自由論題報告がおこなわれるかも現時点では未定です。プログラムの詳細は決まり次第ホームページその他の方法で告知されますので、あらかじめご承知おき下さい。

また報告者数は、プログラム編成上、限りがありますので、自由論題報告希望者数が報告可能人数を上回った場合には、①同一会員が 2 年連続で報告するのを避ける、②過去の報告回数の少ない会員を優先する、③当学会における報告として論題が適切かどうかを考慮する、という原則によって理事会・企画委員会が検討し、報告をご遠慮いただく場合がありますので、この点もあらかじめご承知おき下さい。

第 38 回ロシア・東欧学会年次大会 共通論題

# グローバル金融危機に対応するロシア・東欧

共通論題企画委員長

吉井 昌彦 (神戸大学)

ロシア・旧ソ連および中・東欧諸国の国々は、2000年代に入り高い経済成長と低インフレという良好な経済パフォーマンスを経験してきた。旧ソ連諸国のそれは、1990年代の混乱を克服し、新たな政治・経済システムを構築しえたこと、さらに、ロシアに代表されるように、石油・天然ガス価格の高騰に支えられたものであった。他方、中東欧諸国のそれは、新たな政治・経済システムの構築だけでなく、欧州連合 (EU) 加盟を契機とした海外直接投資 (FDI) やポートフォリオ投資の流入の流入によるものであった。さらに、両地域ともに国内消費市場も盛り上がりを示すようになり、国内消費と投資の好循環が経済をさらに押し上げるかに思われた。

しかしながら、グローバル金融危機の発生により、この好循環は終わりを告げた。ロシアにおいては、石油・天然ガス価格の下落によりマクロ経済は一気に悪化し、資源価格高騰期に蓄積された安定化基金 (予備基金) を取り崩すことにより財政収支や為替レートが維持されている。他方、中・東欧諸国あるいはウクライナなどの旧ソ連諸国においても、外国銀行が資金を引き上げた結果、急速な信用収縮が起き、いくつかの国では経済が破綻寸前となり、国際通貨基金 (IMF) からの融資によりなんとか息をつないでいる。

我々は、まず、ロシア・旧ソ連諸国および中・東欧諸国の経済パフォーマンスは現在どのような状態にあるのかを確認し、その急激な悪化がなぜ生じたのかを今一度分析し直す必要があるだろう。そして、その分析に基づいて、今後の経済回復にはどのような政策が必要とされるのか、また構築されてきた経済システムがどのような変質

を遂げるのか (とりわけ、グローバル経済を支えてきたアングロ＝サクソン型経済システムへの信頼がどのように変化するか)、を議論することができよう。

また、政治システムにおいては、経済の好循環を基礎に作り出された統治手法が今後どのように変質するのかを分析する必要があるだろう。とりわけ、天然資源価格高騰期に出来上がったプーチン首相 (大統領) の統治手法は、今後どのように変化するのだろうか、あるいは逆に危機を乗り切るために強化されるのだろうか。また、中・東欧諸国においても、国民の間に、今回の経済破綻が EU 経済に取り込まれたからであるという思いと、EU 経済への同化が不十分であった (したがって、ユーロを早く採択すべきである) という思いがアンビバレントに並存している。

さらに、社会構造や文化・文学はどのような変質を遂げているのだろうか。例えば、貧富の格差の変化は国民にどのように受け入れられるのだろうか。外国人労働者の送り出しにどのような変化がおきているのだろうか。逆に、受入れ側に外国人排斥の動きは生じているのだろうか。闇社会はどう変化するだろう。

本共通論題報告・討論により、ロシア・旧ソ連諸国および中・東欧諸国がグローバル金融危機にどのように対応し、あるいは翻弄されているのか、今後どのように経済、政治、社会、文化・文学が変質していくのかを広汎に議論していきたい。

# 2008 年度研究大会 共通論題の概要

## 《共通論題テーマ》拡大する中国と EU の狭間のロシア・中央アジア

○ 司会：香川 敏幸（慶應義塾大学）

○ 報告：

1. 斎藤 元秀（杏林大学）

「双頭体制下のロシア外交」

2. 浜 由樹子（津田塾大学）

「『ヨーロッパ』と『アジア』の狭間

——『ユーラシア』地域概念の再考」

3. 本村 真澄（石油天然ガス金属鉱物資源機構）

「ユーラシアにおけるロシアの石油・天然ガスパイプライン戦略」

○ 討論：岩下 明裕（北海道大学）

羽場 久美子（青山学院大学）

斎藤報告は、2008年5月に発足したメドベージェフとプーチンによる大統領・首相というロシア新政権（＝双頭体制）の外交路線を、米国との関係では独自外交とする一方、国益重視の新現実主義的外交とする観点に立ち、その外交のプライオリティーに従い、①対米関係では多極化を狙いながらも「選択的協調関係」、②拡大する欧州（EUとNATO）とは貿易パートナー・独仏との対欧州トロイカ外交および資源外交、③対中央アジア関係では、「裏庭」という認識や影響力が天然資源と民主化・テロ対策をめぐって力関係に変化が生じていること、④台頭する中国との関係においてはSCOなどでの軋みから「緊張をはらんだ戦略的パートナーシップ」やインドあるいはイラン・中東への接近、そして⑤対日接近政策の思惑など、多面的に論じられた。

浜報告は、「狭間」としてのユーラシアの地域概念を再構築するためにいわゆる新・旧の「ユーラシア主義」を検討している。ここではロシア知識人による多様性を内包する広大な多民族地域「ユーラシア」への帰属によって様々な相克や対立を超克しようと提唱された統合運動とする。「フラット化する世界」の中で、起伏に富んだユーラシアのアイデンティティ獲得への思想的挑戦として興味深い問題提起である。

本村報告は、ロシアによる石油・天然ガスパイプラインが、冷戦時代から今日まで長期にわたって欧州諸国に対してエネルギー資源を安定的に供給してきた実績を評価し、パイプラインの特性（自然独占、インフラとしての「自己組織化」と「正のフィードバック」機能、契約締結における「ホールドアップ問題」、石油と天然ガスとでのパイプラインの違いなど）、そして欧州市場への供給と中央アジア産ガスをめぐる多国間競争とロシアの天然ガス戦略について、高度な専門的知識に基づいた見解が展開された。

時間の制約にもかかわらず、それぞれの報告に対する予定討論者からの的確なコメントに触発され、フロアーからも多数の質問が寄せられ、報告者との間で活発な討論が交わされた。

ロシアの新体制発足後、グルジアに生じた軍事衝突（グルジアによる南オセチアへの侵攻とロシアの介入）は、ロシアの既得権益を意識した、ブレジネフ・ドクトリンの再来とも見て取れるが、ユーラシア主義との関係はどのようなものか。つまり、欧州との関係性の中から生まれたロシアのユーラシア主義は中央アジアにとって脅威なのか親和性を持つものなのか。グルジア問題におけるロシア政策と、中央アジア諸国による南オセチア独立不承認は、ロシアのユーラシア主義への警戒を示しているのではないか。また米国発の金融危機がロシア・中央アジアにどのような影響をもたらすか。新しく誕生したオバマ政権による対ロ政策によってロシア外交には新展開があるのか。共通論題での報告と討論は、まさにこの地域をめぐる問題に対して有益な示唆を提供している。

最後に、今大会は、関連する4学会の合同大会という初めての試みでもあり、プログラムの多彩さと参加者の規模において極めて盛会であったことにつき、大会企画委員会および大会校・実行委員会のご尽力に感謝したい。（香川敏幸）

## 最近の理事会議事録より

### 《2008 年度第 2 回理事会》

- 2008 年 10 月 12 日（日）12:40～13:40
- 於・名古屋学院大学 曙館 606 会議室
- 司会：宇多 文雄 理事

#### 1. 報告事項

(1) 4 学会共同大会開催の意義について(家本博一・大会開催校実行委員長)

当日開催中の研究大会について、多数の研究者の参加のもとで、ロシア・東欧学会、JSSEES、ロシア史研究会による共同大会として実施されていること、最終的にロシア文学会も加わるかたちで共同シンポジウムが実施されることについて、報告された。

(2) 会誌編集委員会報告（溝端佐登史・編集委員長）

2008 年 3 月に刊行された会誌第 36 号に関し、事務局と相談のうえ、日ソ、ナウカ・ジャパン、極東書店、紀伊国屋書店の 4 社の広告を掲載したことが報告された。また、同号より大会プログラムなどの記録掲載を再開したことが報告された。

第 37 号については、9 月 15 日に原稿提出意向を締め切ったところ、14 本の投稿申請（うち 1 本は研究ノート）があったこと、10 月 13 日に編集委員会審査員の決定を行い、2009 年 4 月の刊行をめざし作業を進めていることが報告された。また、書評の積極的な投稿について依頼があった。

(3) 事務局会務報告（羽場久美子・事務局長、上野俊彦理事、湯浅剛理事）

会員名簿およびニューズレター第 17 号の発送について、学会ホームページ・ロシア語版の完成および同英語版の作業が進行中であることについて報告された。

また、会費納入状況（9 月末までの納入率：正会員 60%、院生会員約 51%、法人会員 75%）、退会希望会員（1 名）、3 ヶ年会費未納者（13 名：2008 年 12 月中に会費を振り込まねば除籍となる）および入会申込者（4 名：表 1 参照）について報告があった。

(4) 羽場事務局長より、2008 年度予算・

中間報告がなされた。

(5) 羽場事務局長より、会誌バックナンバーの寄贈について、計 70 の大学・研究機関に送付を行ったことが報告された。

(6) 対外関係（松里公孝理事）、学術会議関連（羽場久美子事務局長）報告

国際中・東欧研究学会（ICCEES）と中国および韓国の学会との関係が正式にスタートしたこと、2015 年の ICCEES 大会の開催地についてグラスゴーが立候補したことが報告された。また、2009 年 2 月に札幌で開催される第 1 回スラブ・ユーラシア研究東アジア学会でのパネル組織について、積極的な応募が呼びかけられた。

学術会議では、新改選においてロシア・東欧学会が地域連絡協議会の幹事学会に決まったこと、次回 News Letter で学会紹介がなされることが報告された。

(7) その他（羽場事務局長、袴田代表理事）

北海道大学スラブ研究センターからの要請によりロシア・東欧学会として同センターの全国共同利用施設認定について推薦をする方向で調整中であることが報告された。

旧法人会員のみちのく銀行会長であった故・大道寺小三郎氏の三回忌法要があり、本年、同氏を顕彰する記念会が発足する方向にあるとの情報が提供された。

本務校・研究機関などを定年退職し、最近当学会に退会届を提出した会員（3 名が該当）について、退職会員制度（70 歳以上の定年退職された会員について、ご自身の申告があれば年会費を 5 千円に減額）を適用することで引き続き学会に加入していただくよう依頼をする方針であることが報告された。

#### 2. 審議・承認事項

(1) 次年度大会について、秋田大学で開催されることが承認された。

(2) 次年度の共同大会可能性について審議され、引き続き検討することとなった。

(3) 新入会員および退会会員について、了

## 表 1 新入会員

(2008 年 10 月 12 日までの申請・理事会承認分)

| 氏名    | 所属           | 専攻                | 推薦者    |        |
|-------|--------------|-------------------|--------|--------|
| 藤井 陽一 | 西南学院大学 (研究生) | ソ連政治思想史           | 上垣 彰   | 仙石 学   |
| 藤原 浩  | 著述業          | ロシア史, ロシアにおける日本文学 | 上野 俊彦  | 村田 真一  |
| 堀江 典生 | 富山大学         | ロシア経済             | 五十嵐 徳子 | 藤本 和貴夫 |
| 中井 遼  | 早稲田大学 (大学院生) | 比較政治学             | 伊東 孝之  | 久保 慶一  |

(2009 年 2 月 1 日までの申請・理事会承認分)

| 氏名    | 所属              | 専攻                 | 推薦者    |        |
|-------|-----------------|--------------------|--------|--------|
| 林 裕明  | 島根県立大学          | ソ連・ロシア経済論, 比較経済体制論 | 溝端 佐登史 | 吉井 昌彦  |
| 吉田 豊子 | 京都産業大学          | 中国近現代史             | 石井 明   | 羽場 久美子 |
| 木村 香織 | モスクワ国立大学 (大学院生) | ソ連・東欧史 (20 世紀)     | 下斗米 伸夫 | 吉田 衆一  |
| 油本 真理 | 東京大学 (大学院生)     | 政治学                | 塩川 伸明  | 袴田 茂樹  |

(注) 推薦者 2 名の氏名は五十音順。

承された。

(4) 編集委員会より会誌執筆要領の変更について提案があった。詳細な事項については次回以降の課題とするが、さしあたり、海外からの投稿を考慮し、原稿提出方法について以下の点の改正が提案され、承認された。

【旧】(前文略) 電子メールにて添付して送信し、あわせてハードコピー1部とファイルを保存したフロッピーディスクとともに編集委員会に郵送により提出すること。

【新】電子メールにて添付して送付する(支障がある場合には後者の方法を求める)、あるいはハードコピー1部とファイルを保存したフロッピーディスクとともに編集委員会に郵送により提出すること。

## 《2008 年度第 3 回理事会》

- 2009 年 2 月 1 日 (日) 14:30~17:00
- 於・青山学院大学 青学会館校友会 A 室
- 司会：藤本和貴夫 副代表理事

## 1. 報告事項

(1) 会誌編集委員会報告 (溝端委員長)

4 月の刊行に向けて順調に編集作業が進んでいる旨報告があった。

(2) 事務局会務報告 (羽場事務局長)

会費納入状況 (12 月末までの納入率：正会員 75%, 院生会員約 60%, 法人会員 100%),

退会希望会員 (8 名), 3 ヶ年会費未納者 (前回理事会で報告された 13 名のうち, 8 名が 2008 年 12 月中に会費を振り込まなかったため除籍となった) および入会申込者 (5 名: ただし, うち 1 名については推薦者に非会員名を記載しているため一旦差し戻しとする。表 1 参照) について報告があった。2008 年度決算案および 2009 年度予算案が報告された (表 2 参照)。

(3) 2008 年度 4 学会共同大会開催校 (家本実行委員長) から, 会計決算報告がなされた。当学会より, 当初予定されていた大会費 30 万+10 万円に加え, (本来大会開催に施設使用料が必要な場合の支出である) 予備費 40 万円が, 当面収入に計上されたこと, 後者については他の 3 学会との協議のもとに支出が分担されること, 開催校・名古屋学院大学からも補助金の支給など開催にあたり多大な協力をいただいたこと, などが報告された。

(4) 2009 年度大会開催予定校 (中村裕理事) より, 10 月 17~18 日に実施する方向で作業を進めていることが報告された。

(5) 2009 年度の役員改選について (羽場事務局長), 学会会則, 役員選出規定など関連規定・手続きについて確認がなされた。

(6) ロシア・東欧学会として北海道大学スラブ研究センターの全国共同利用施設認定について推薦をする件について, 袴田代表

表2 2008年度仮決算および2009年度予算案 [2009年2月1日現在]

|              | 2008年度予算  | 2008年度仮決算        | 2009年度予算(案) |
|--------------|-----------|------------------|-------------|
| 収入の部         |           |                  |             |
| 前年度繰越金       | 4,979,166 | 4,979,166        | 5,265,239   |
| 会費(注1)       | 3,070,000 | 3,560,000        | 3,090,000   |
| 個人           | 3,010,000 | 3,500,000        | 3,030,000   |
| 正会員          | 2,760,000 | 3,250,000        | 2,820,000   |
| 院生会員         | 250,000   | 250,000          | 210,000     |
| 団体           | 60,000    | 60,000           | 60,000      |
| 維持会費         | 20,000    | 0                | 20,000      |
| 寄付           | 50,000    | 31,000           | 20,000      |
| 利息           | 1,500     | 1,000            | 1,500       |
| 雑収入          | 20,000    | 125,000          | 80,000      |
| 収入小計         | 3,161,500 | 3,717,000        | 3,211,500   |
| 総計           | 8,140,666 | 8,696,166        | 8,476,739   |
| 支出の部         |           |                  |             |
| 大会費          | 300,000   | 400,000          | 300,000     |
| 年報発行費        | 1,300,000 | 1,238,107        | 1,300,000   |
| 年報印刷費        | 1,200,000 | 1,155,000        | 1,200,000   |
| ニューズレター印刷費   | 100,000   | 83,107           | 100,000     |
| 事業費(注2)      | 40,000    | 60,000           | 40,000      |
| 学術会議費用       | 0         | 0                | 0           |
| 事務局費(事務, 謝礼) | 400,000   | 400,120          | 400,000     |
| 事務用品・コピー代    | 50,000    | 50,000           | 50,000      |
| 会議費補助        | 700,000   | 550,000          | 700,000     |
| 選挙管理費        | 0         | 0                | 100,000     |
| 会員名簿印刷代      | 50,000    | 92,820           | 100,000     |
| 通信・発送費       | 200,000   | 150,000          | 200,000     |
| 利息・手数料料金(注3) | 40,000    | 40,000           | 40,000      |
| 予備費(注4)      | 500,000   | 450,000(400,000) | 500,000     |
| 支出小計         | 3,580,000 | 3,430,927        | 3,730,000   |
| 繰越金          | 4,560,666 | 5,265,239        | 4,746,739   |
| 総計           | 8,140,666 | 8,696,166        | 8,476,739   |

(注1) 2009年度予算の会費額は、2008年度の納入状況より、会員総数424名のうち、正会員(353名)80%、院生会員(60名)70%、法人会員(4団体)75%、名誉会員(7名)、で試算。

(注2) 事業費は、JCRES(日本ロシア・東欧研究連絡協議会)および地域連絡協議会の負担金。

(注3) 「利息・手数料」は、事務局費に含まれる銀行手数料を郵便振替払込料金と合わせたもの。

(注4) 予備費は、大会開催に施設使用料が必要な場合の支出。

理事より経緯の説明がなされるとともに、推薦書の文案が提示された。

## 2. 審議・承認事項

(1) 2008年度仮決算ならびに2009年度予算(案)について審議のうえ了承された。ただし、前者については大会予備費からの借入金40万円は、最終的に4学会代表協議の上、決算は次回理事会(6月予定)にて

報告・承認することとなった。

(2) 2008年度4学会共同大会開催校決算報告について審議のうえ了承された。なお、審議のなかで、家本理事の尽力をねぎらうとともに、今後も同様の共同大会が開催される可能性を考えて、開催校や事務局の負担を軽減するためにも関係者が問題点を列挙し、記録しておくべきとの意見が提示された。袴田代表理事より、近日中に4学会

の代表者との会合を行い、共同大会の費用負担等について協議する方針である旨発言があった。

(3) 2009 年度大会議題について審議された(本ニューズレター1頁参照)。また、企画委員長として吉井昌彦(神戸大学)、同委員として五十嵐徳子(天理大学)、香川敏幸(慶應義塾大学)、中村裕(秋田大学:開催校)、望月哲男(北海道大学)、湯浅剛(防衛研究所)の各理事が選出された。

(4) 2009 年度役員改選のための選挙管理委員会の組織が審議された。規定により、今回は西日本より委員長が選出されることから、岩田賢司理事(広島大学)が委員長

に、また同委員には小澤治子(新潟国際情報大学)、志摩園子(昭和女子大学)、角田安正(防衛大学校)の各理事ならびに兵頭慎治会員(防衛研究所)が選出された。

(5) 新入会員および退会会員について、了承された。

(6) 北海道大学スラブ研究センターに関する推薦書について、審議のうえ承認された。

(7) 学会が公益法人となる事例が増えているところ、当学会としても引き続き他学会の経緯について調査しながら公益法人化の是非について協議を続けていくこととなった。

\*\*\*\*\*

## 『ロシア・東欧研究』 原稿募集

会誌第 38 号(2009 年版)への、論文、研究ノート、書評、資料紹介の原稿を募集しています。特に 10 月の研究大会・自由論題にて御報告される会員からの積極的な投稿をお願いいたします。

まず、ご投稿希望を受け付けます(締め切りは 9 月 15 日)。受理後、原稿提出締め切りは 11 月末日になります。

詳しいことにつきましては、会誌編集委員会までお問い合わせください。

投稿規定、執筆要領につきましては、ロシア・東欧学会ホームページの会則・諸規定のページないしは会誌巻末の「投稿規定・執筆要領」をご覧ください。

### 【投稿申し込み先・原稿送付先】

ロシア・東欧学会会誌編集委員会  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
京都大学経済研究所  
溝端研究室気付  
Tel: 075-753-7144, Fax: 075-753-7148  
e-mail: mizobata@kier.kyoto-u.ac.jp

(編集委員会委員長 溝端佐登史)

### 《事務局より》

◆初の試みであるロシア・東欧関係 4 学会の共同大会が無事大盛會をもって終了したことに対し、合同学会大会開催校と実行委員長家本先生、4 学会の代表・開催責任者初め 4 学会すべての参加者の方々に心より感謝申し上げます。これを礎として是非第 2 回、第 3 回の共同大会が今後も無理なく開催されていくことを望みたいと思います。

金融危機を背景としたロシア・東欧の変容について、今年の共通論題も企画委員会のご尽力で充実した報告陣が揃いました。秋田大学の大会にも奮ってお出かけください。(羽場久美子)

◆名古屋での研究大会・共通論題の概要について、香川理事よりエッセイを御寄稿いただきました。ありがとうございました!(湯浅 剛)

### ロシア・東欧学会ニューズレター第 18 号 (2009 年 4 月発行)

#### 《発行：学会事務局》

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25  
青山学院大学国際政治経済学部  
羽場久美子研究室気付  
E-mail: jareesoffice@yahoo.co.jp  
URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/roto/index.html>  
ニューズレター編集担当：湯浅 剛  
E-mail: ty@nids.go.jp